

コレクション展 「やさしい時間」 作品リスト

周南市美術博物館

期間: 2021年4月28日(水)～7月4日(日)

※展示順 ※各作家の略歴は裏面に紹介しています。

No.	作家名	作品名【よみ方】	点数	制作年	材質	サイズ(縦×横 cm)
1	宮崎進	青衣のひと【せいのひと】	1	1982(昭和57)年	油彩・ガラス	18.0 × 14.0
2		少女	1	1982(昭和57)年	油彩・ガラス	18.0 × 14.0
3	天野芳彦	題名不詳	1	不詳	油彩・キャンバス	44.4 × 51.6
4		題名不詳	1	1960(昭和35)年頃	油彩・キャンバス	60.5 × 72.5
5	松田正平	あけびといちじく	1	不詳	油彩・キャンバス	26.0 × 39.7
6	澤野文臣	東浜崎の夕映【ひがしはまさきのゆうばえ】	1	1995(平成7)年	紙本彩色	135.5 × 173.5
7	前田麦二	鹿児島県始良寺師臥竜梅【かごしまけんあいらでらしがりゆうばい】	1	1970(昭和45)年	水彩・紙	50.0 × 72.7
8	宮崎進	静物	1	1958(昭和33)年	油彩・キャンバス	72.7 × 116.7
9		静物	1	1957(昭和32)年	油彩・キャンバス	116.7 × 91.0
10	尾崎正章	けし	1	不詳	油彩・キャンバス	89.8 × 59.0
11	天野芳彦	晩夏	1	不詳	油彩・キャンバス	87.8 × 70.4
12	森寛斎	藤花颯図【とうかいたちず】 (双幅の内の右)	2	1848(嘉永元)年	(各) 絹本着色	(各) 102.2 × 41.0
		柿小禽図【かきしょうきんず】 (双幅の内の左)				
13	小田海僊	春秋山水 (双幅)	2	不詳	(各) 絹本墨画	(右)27.9 × 21.0 (左)27.9 × 21.0
14	三輪栄造	男のネック	1	1988(昭和63)年	陶器	16.2 × 14.7 × (高) 33.5
15		リップスティック	1	1995(平成7)年	陶器	11.8 × 11.8 × (高) 50.1
16		トップブランド	1	1995(平成7)年	陶器	18.1 × 36.3 × (高) 45.6
17	河上大二	風景〈一ノ井手〉	1	1934(昭和9)年	水彩・紙	57.2 × 78.5
18		徳山公園(菖蒲園)	1	1933(昭和8)年	水彩・紙	56.8 × 75.4
19		屋外	1	不詳	水彩・紙	57.4 × 78.2
20		イーゼルのある部屋	1	1930(昭和5)年	水彩・紙	57.2 × 79.5
21		風景〈川崎観音〉	1	1937(昭和12)年	水彩・紙	78.2 × 57.4

計21件

計 23 点

作家略歴

- 小田海僊 (1785-1862) 江戸時代後期の画家。周防富海の回船業河内屋に生まれ、下関の紺屋小田家の養子となった。22歳の時、京都に上り四条派の松村呉春の門に入り、頼山陽に教えを受けて南画に転じた。1824(文政7)年、萩藩に絵師として召し出され、1826(文政9)年より再び京で活動した。中国元・明時代の古画を研究し、独自の画風を確立。人物画を得意とする。
- 森寛斎 (1814-1894) 幕末明治期の日本画家。萩藩士石田伝内道政の三男として生まれる。京都で森徹山に師事。徹山の養子となる。幕末には国事にも奔走し、勤王志士とも交流があった。1880(明治13)年京都府画学校出仕。1882(明治15)年第一回内国絵画共進会銀賞受賞。1890(明治23)年第三回日本美術協会展「後赤壁図」銀牌。同年帝室技芸員。明治期京都画壇の重鎮。
- 前田麦二 (1891-1974) 1891(明治24)年下松生まれ。のち徳山に転居。1926(大正15)年河上大二、久保白船らと徳山洋画協会を結成した。1929(昭和4)年に岸田劉生が徳山へ来た折には共に写生に出かけるなど交流をもった。椿貞雄に勤められ1931(昭和6)年に「小樽の風景」を国画会に出品し入選した。戦後は1946(昭和21)年に結成された防長美術家連盟に参加。1959(昭和34)年徳山市文化功労者。1971(昭和46)年昔の生活や風俗を記録した「徳山の思い出」を制作し1973(昭和48)年に画集『徳山の思い出』として出版した。
- 河上大二 (1893-1949) 東京生まれ。神戸須磨で幼少期を過ごす。1918(大正7)年東京美術学校(現・東京藝術大学)西洋画科卒業。1921(大正10)年療養のため徳山に転居。1926(大正15)年前田麦二、久保白船らと徳山洋画協会を結成。1927(昭和2)年帝展に「暮し行く漁村」が初入選、以後毎年帝展に出品。1946(昭和21)年に結成された防長美術家連盟に参加。1947(昭和22)年日展委員。
- 尾崎正章 (1912-2001) 1912(明治45)年徳山町(現・周南市)生まれ。胸部疾患により日本大学文学部を中退、京都で療養生活を送る。1938(昭和13)年から美術工芸店に勤務しながら本格的に絵を描き始め、春陽会展、一水会展に入選。1943(昭和18)年に帰郷、戦後、安井曾太郎に師事。1946(昭和21)年防長美術家連盟に参加。日展で審査員・評議員・参与、一水会で常任委員、運営委員を歴任。数多くの作品を市に寄贈、1995年には新南陽市(現・周南市)郷土美術資料館・尾崎正章記念館が開館。
- 天野芳彦 (1912-1980) 洋画家。1936(昭和11)年東京美術学校在学中、文部省美術展覧会初入選。1937(昭和12)年東京美術学校油絵科卒業。1946(昭和21)年防長美術家連盟に参加。1956(昭和31)年から4年連続で国画会展入選。その後、無所属となる。1951(昭和26)年～1970(昭和45)年の間 柳井、下松、徳山高校の美術教諭として勤務。地域の美術振興に尽力する。1972(昭和47)年徳山市文化功労者。
- 松田正平 (1913-2004) 島根県鹿足郡青原村(現・津和野町)生まれ。1935(昭和10)年帝展第二部会に「婦人像」が入選。1937(昭和12)年東京美術学校(現・東京藝術大学)卒業、パリに留学。1939(昭和14)年第二次世界大戦勃発により帰国。1945(昭和20)年宇部市に帰郷、東見初炭鉱で働く。翌年光市へ転居、防長美術家連盟に参加。1951(昭和26)年国画会会員。その後東京、千葉に転居。1984(昭和59)年第16回日本芸術大賞受賞。1995(平成7)年宇部に帰る。2002(平成14)年文化庁長官表彰を受ける。
- 澤野文臣 (1914-2005) 日本画家。徳山町(現・周南市)浦山生まれ。1937(昭和12)年京都市立絵画専門学校卒業。同校研究科を経て、堂本印象の画塾、東丘社へ入る。戦後1956(昭和31)年第12回日展で特選白寿賞受賞。翌年、「網船」で連続受賞。1964(昭和39)年日展菊華賞受賞。1969(昭和44)年日展会員、東丘社理事。1968(昭和43)年と1985(昭和60)年には日展審査員に就任。1992(平成4)年山口県選奨受賞。1996(平成8)年「詩情あふれる自然への眼差し 澤野文臣展」開催(徳山(現・周南)市美術博物館)。
- 宮崎進 (1922-2018) 洋画家。徳山町(現・周南市)御弓町生まれ。1942(昭和17)年日本美術学校油絵科を繰り上げ卒業、同年入隊、戦後捕虜となりシベリアに抑留される。復員後、上京。1967(昭和42)年第10回安井曾太郎記念賞受賞。1972(昭和47)～74(昭和49)年渡仏、帰国後はアトリエを鎌倉に移す。1995(平成7)年小山敬三賞、1998(平成10)年第48回芸術選奨文部大臣賞、2007(平成19)年旭日小綬章受章。2009(平成21)年から周南市美術博物館名誉館長をつとめた。
- 三輪栄造 (1946-1999) 11代三輪休雪(壽雪)の次男。兄は12代三輪休雪。1970(昭和45)年武蔵野美術大学彫刻科卒業後、伯父三輪休和の養子となる。萩焼の伝統的な茶陶を踏襲する一方で、卓越した造形力を駆使して新しい萩焼の可能性を追求。1987(昭和62)年山口県芸術文化振興奨励賞。